環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち”環境公共

第１６号　平成２５年１月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島 1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

青森の農業農村整備を推進する集い 2012　の開催

平成 24 年 10 月 4 日、青森市民ホールにおいて青森県土地改良事業団体連合会の主催により、「青森の農業農村整備を推進する集い 2012」が開催されました。

本イベントは、元気のある農業農村づくりに不可欠な農業農村整備の推進を広く県民にＰＲするとともに、計画的な事業推進につなげることを目的に行われました。

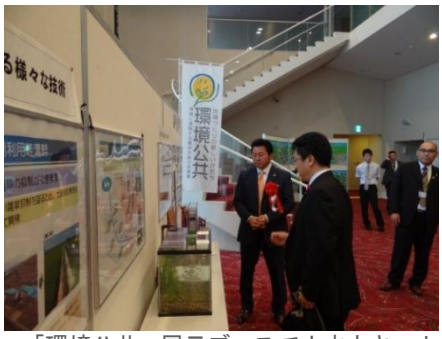
パネルディスカッションの様子

パネリストとして意見を述べる世永会長

『女性の視点とパワーで豊かな農業農村を次世代に』と題したパネルディスカッションでは、環境公共学会の世永会長がパネリストとして「環境公共」の取組を紹介したほか、農業農村を元気にするためには“強いリーダーの存在”や“地場の資源や人財の活用”が必要であることを訴えました。また、他のパネリストからは、“農家は販売への工夫や努力が必要”“女性も大型機械の運転に挑戦してほしい”といった意見がありました。

会場入り口には「環境公共」展示ブースが設置され、パネル展示のほか、今話題の環境にやさしい小水力発電のミニチュア模型なども展示され、多くの来場者の目を引いていました。

当日は、大相撲の元小結の舞の海秀平氏による特別講演や八戸短期大学の客員教授である三村三千代氏による基調講演も行われ、会場は多数の来場者で埋め尽くされ、盛会の内に幕を閉じました。



「環境公共」展示ブースで小水力キットの説明を聞く舞の海氏

青森県農林水産基盤整備推進セミナー　の開催

青森県漁港建設協会では、これまで企業の経営・管理能力の向上や技術力、漁港整備を巡る状況等について理解を深めることを目的に「漁港漁場整備事業推進セミナー」を開催してきました。

同協会では去る 11 月 9 日、「環境公共」の取組推進と関係者の連携強化を図るため、初の試みとして農村整備建設協会との共催による「青森県農林水産基盤整備セミナー」を開催しました。

セミナーでは、「環境公共」のこれまでの成果や取組紹介、圃場整備に関する説明等があり、参加した漁業関係者は「環境公共」の推進が“きれいな水”の維持・確保につながり、持続可能で循環型の農林水産業に結びつくとの共通認識を新たにしました。

講師として「青森県の農業農村整備の推進方向」を説明する北林農村整備課長

■「環境公共」事例紹介

北三沢地区（三沢市）　～ 地域農業の再生と環境との共存 ～

1　地区の概要

北三沢地区の位置図

北三沢地区は、三沢市北部の小川原湖と太平洋に挟まれた場所にあり、国営三本木開拓建設事業（昭和 41 年度竣工）により干拓された谷地頭地区の北部約 100ha にあたる水田地帯です。

本地区は、春から秋にかけてヤマセの影響を強く受ける稲作には厳しい環境であり、現在ではヨシ等が繁茂する遊休農地が増加しています。

このような中、農業従事者の高齢化及び後継者不足も相まって農村地域が衰退していく傾向を食い止めるため、大区画ほ場整備を行うことで効率的営農と遊休農地解消を図り、担い手への利用集積を促進していくことを目的として、平成22年度から経営体育成基盤整備事業を行っています。

2　農業と環境の共存を目指した取組

オオセッカー斉調査の様子

本地区の東側にある仏沼は、もともと昭和の食糧増産の時代に干拓された水田ですが、オオセッカの繁殖に適しており、国内最大級の繁殖地となっているほか、多種多様で豊かな生物相が確認されていることから 2005 年にラムサール条約に登録されています。

オオセッカの繁殖への影響を最小限としたほ場整備を行うため本地区の協議会が出した結論は、「オオセッカの繁殖期の 5 月から 9 月末までは工事を行わない」というものでした。

冬期間は気象条件が悪く、工事の実施には適さない時期ですが、工期の短縮などに努めながらこれまでに約６割の整地工事が完了しており、今春行われたオオセッカの一斉調査では、全体数は微減で、工事による直接的な影響は見られませんでした。

また、今年は地元農家の有志が組織した農事組合法人「フラップあぐり北三沢」が区画整理された水田で飼料米を直播栽培しました。工事で除去しきれなかったヨシ等に苦しみながらも、今までに例のない好天に恵まれたことで例年並みの収穫量となり、一同胸を撫で下したところです。

3　今後の取組

現在、残りの整地工事を行っているところですが、引き続き周辺環境への配慮に細心の注意をはらい、同法人の「フラップ（浮揚）」に必要な基盤整備を着実に進めていくとともに、環境と共存した農地で作られた農産物としての付加価値化を支援することで農家の所得向上を図っていきたいと考えています。

飼料米の生育状況

「環境公共」HP　http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyoukoukyou.html